

支えられつつ 支えま

るうてるホームの50年



キリスト教社会福祉に

求められる視点

ルーテル学院大学 学事顧問

市川 一宏



私は、「新しいぶどう酒を古い革袋に入れる者はいない。そんなことをすれば、革袋は破れ、ぶどう酒は流れ出て、革袋もだめになる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。そうすれば、両方とも長持ちする。」(マタイ9:17)という聖句を原点にしています。神学者のウィリアム・パークレーは、歴史を通じて、古いものに固執してきた教会や私たちをさして、「新しい試みを受け入れなければならない時が来る。これを回避することは、時代に逆らい、神を拝むのではなく、過去を拝むことになる」と警告を發します。私は、パークレーの聖書講読が好きで、よく使いますが、このような厳しい指摘は、あまり記憶にありません。

さて、聖書の譬えのように、昔は、ぶどう酒をびんではなく、皮袋に入れて蓄えていた。新しいぶどう酒はまだ発酵が終わっていないので、次第に膨張し、皮袋に圧力をかけます。しかし、古い皮袋は弾力性がないので、膨張に耐えることができない。

これを私たちに当てはめるならば、私たちの心と頭は、新しい考えを受け入れるだけの弾力性がなければなりません。これは、ウィリアム・パークレー著・松村あき子「マタイ福音書上」ヨルダン社、p.364-366)

この数10年の社会福祉の歩みをたどりますと、1980(昭和55)年代の在宅福祉サービスの導入、施設における生活環境の重視、1990(平成2)年代のサービスの担い手の広がり、すなわち社会福祉法人の他、民間非営利団体、民間企業の参入、2000(平成12)年代の苦情対応システム、サービス評価事業の導入、利用者の権利擁護制度の創設等、サービスの運営の強化と区分することができると思います。

以上の結果、サービスの量は飛躍的に増加し、利用者の権利保障も強化されてきました。しかし、もっとも大切なこと、すなわちサービスを提供する組織の使命、担い手が日々の働きにおいて大切にすべきより所が不明確になっているのではないのでしょうか。ここに、今日の社会福祉の危機があると思っています。

1 求められるキリスト教社会福祉の原点

Lifeとは、1. 命、生命、人命、2. 生命をもった人、3. 生活、

暮らし方、4. 人生、等々の多様な意味をもっている。いずれも、生きていくために欠かすことのできないものです。私が考えておりますキリスト教社会福祉の原点について、述べさせて頂きます。

1. 生命の理解

「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」(イザヤ書43章4節)との聖句の通り、すべての生命は、神様から祝福されて与えられたもの。この事実には、疑義をはさむ余地はありません。生まれてきた子に、「おめでとう」と言うのは、当たり前。しかし、今、一人ひとりの生命が、軽視されています。生命の尊厳を守り、一人ひとりにおめでとうと言いつけていきたい。

2. 人間の理解

「人間とは何なのか。なぜあなたはこれを大いなるものとしこれに心向けられるのか」(ヨブ記7章17節) 利用者理解を含め、私たちはこの問いにどのように答えるのか求められています。

「主なる神は、土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となります。

た。」(創世記2章7節)とあるように、命の息吹がスピリチュアリテイの原点です。しかし、スピリチュアリテイを日本語訳にすることは非常にむずかしい。阿部志郎先生は、スピリチュアリテイを「自己存在を超える深みから、根源的に人間を支え動かす、知情意を統合して生きる意味を内発的に問いかける力」と定義なさいました。人を人としてあらしめる感性、知性、意識をもつために、日々成長していきたい。

3. 生活の理解

貧困と経済的格差が広がっており、生活の豊かさを求める機会が奪われています。深刻な問題が拡大しています。また、豊かさとは何でしょうか。目に見える豊かさがもつとも大切にされ、絆、思いやり、私たちの生活を取り巻く自然の営みが軽視されているのでは？一人ひとりが直面する痛みやその背景も異なります。個々の生活をどのように理解できるか、援助者の知識や技術、そして感性を養っていきたい。

4. 人生(生きていく意味)の理解

自分の居場所を、学校、会社、地域に見いだせない人々が増えています。また家族や友人、同僚との確執が、多くの人を孤立に追いやっています。今は、だれにとっても、生きていくこと

が難しい。

精神科医フランクは、生きる意味があるかと問うのは、はじめから誤っている。人生こそが私たちに問いを投げかけている。自分の生き方ががんじがらめに制限されるなかで、唯一残された選択肢は、生きることをごどのような覚悟をするかという、まさにその一点にかかっていた。およそ生きることそのものに意味があるとすれば、苦しむことも意味があるはずだと、言っています。(『それでも人生にイエスと言う』山田邦男・松田美佳訳、春秋社2006(平成18)年39刷)だからこそ、私は、共に生き続けていきたいと思っています。

Ⅱ あなたの隣人とは誰ですか。

私は、東日本大震災が起こって以来、私からお願ひして、石巻市社協に関わらせて頂いています。そこで、たくさんの方々に教えて頂いています。そして、東日本大地震の被災した方々が灯した、自分たちでコミュニティを再建しようとする「希望の光」を大切にしたい。また、大震災によって亡くなった方々と行方不明の方々を超える数の人々が、自殺や孤立死していると言われている現実を見て、皆が、それぞれの生活の場で、学

びの場で、「希望の光」を灯すことが必要だと思っています。その光は、共に歩む私たちの思いであり、共に悩む者の涙です。生命の大切さを知り、守り、伝える人が放つ光だと思っています。

被災地の問題は、非常に広範な地域にわたり、数の上でも膨大で、たくさんの方々の支援を繋いで、協力し合いながら、対応していかなければ、全く解決には繋がらないと思っています。クリスチャンであるかどうかということを中心に据えた協働は、あまりに狭く、限界があるのではないのでしょうか。この視点は、キリスト教社会福祉の考え方にも通じるものです。すなわち、神は苦しむ人間の姿を見て、見逃さず駆け寄り、寄り添い、その痛みを背負って下さる方であることから、強い共感が生まれます。神と同じように人々の苦しむ姿に共感して駆け寄るならば、神を信じる、信じないにかかわらず、意識するとしなないと関わらず、神と結ばれた共に歩む隣人です。連帯して「希望の光」を灯す歩みを続けたい。

Ⅲ キリスト教社会福祉を掲げる組織の座標軸

ここで言う座標軸とは、「縦軸としての神との関係、横軸としての隣人との関係を前提に、そのX・Y軸との関係において自分

がどこにおり、どこに向かうべきかをはっきりさせる」指針です。その際、横軸を構成する六つのCについて述べたいと思います。

①Capacity building: 困難に直面する人、すなわち当事者が、自分の能力と、人や地域社会との関わりを活かし、問題を解決していくことを支援すること。これは、人間理解の視点でもありません。

②Check and evaluation: 具体的な支援が、手続、計画、内容において適正なものか、評価基準を明確にした上で、たえず見直していくこと。そのためには、生活の質、自立、家族の役割、体罰と襲、逃避と自己防衛、生と死、生命倫理、差別等のソーシャルワーカーが避けては通れない課題への取り組みが急がれる。これは、価値をめぐる視点でもありません。

③Citizen participation: 市民が、支援の決定、提供、評価、苦情対応、福祉計画の策定等、社会福祉のさまざまな場面に登場してきています。それは、依存関係や責任転嫁から脱却した、市民間、市民とソーシャルワーカー間の役割の確認であり、合意形成でもありません。

④Community: Community は、自分の生活の拠点であり、住民の互いの理解を通して自己の存在を確認する場です。そしてCommunityとは、自分の生活の拠点、出会いの場、発見の場である住民の共有空間として「つくり上げられる」ものです。

たとえば、るうてるホームが、地域に置かれ、地域にある施設として住民から認識され、実際に貢献しているか、たえず問い続けて頂きたいと思います。

⑤Cooperation: 今、「ともに生きること」の意味が問われています。すなわち、個々人の多様性を認識し、市民としての当事者性と自己責任を自覚し、目標としての社会連帯を確認するとともに、実際の福祉現場において保健・医療・福祉・教育の新しい協働システム、見守り活動等の市民同士の支援システムが求められているのです。これは、「共生」と「他者理解」をめざした、新しい協働関係の模索です。

⑥Contact: 社会福祉法は、サービスの利用者と提供者間の契約システムの導入を図りました。そして利用者保護の観点から、権利擁護、選択のための情報提供、苦情対応、サービス提供者の情報公開と説明責任等を規定しています。契約は、ある意味で、目に見えるケアにおいてだけ成り立つものではありません。相談や精神的支援、情報提供、潜在的ニーズの発掘、利用者の権利の代弁、ボランティア活動支援等、ソーシャルワーカーが担うべき役割を、利用者との契約の結果として、明らかにし、実践して頂きたい。

私は、これら六つのCの課題を解くカギが、縦軸のC(Christ)のとりなしによって、実際の働きとして与えられていると思っ

います。るうてるホームが、キリスト教社会福祉の原点に深く根ざし、そして、座標軸を明らかにした働きを担うことを期待し、応援したいと思っています。



近隣の幼稚園児との交流



市川先生による全体職員研修